

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

● 第 5 次行政改革大綱第 1 次実施計画との関連		有 ・ 無
☐ 有		
☒ 無		

1 ■ 事務事業の概要

1 - 1 事務事業の名称	とよあけマラソン開催事業（主要事業）									
1 - 2 担当	部	教育部	課 又は施設	体育課	係	体育振興係	評価票作成者	体育振興担当係長 小島孝延		
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	教育文化				基本施策	生涯スポーツ・スポーツ振興		コード	4—2—1
		「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」				単位施策(中)	生涯スポーツの充実		コード	4—2—1—2
	項	生涯スポーツ・スポーツ文化				単位施策(小)	とよあけマラソンの継続と参加者の増加		コード	4—2—1—2—1
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	マラソン・ジョギングに参加する選手及びスタッフ			意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		とよあけマラソン大会を開催することにより、市民を始めとした参加者の健康増進を図る。また、市外・県外から多くの参加者が集うことにより豊明市の知名度アップを図る。			
1 - 5 事務事業の内容	市民を主体としたボランティアスタッフ500名と協力して毎年「とよあけマラソン」を開催する。「とよあけマラソン」は、ＪＲＡ中京競馬場を舞台として市内の街路コースを走る市民マラソンで、１０ｋｍ・５ｋｍ・２ｋｍ・ジョギングの各コースがある。									

2 ■ 事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識		事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み				社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識		
	平成18年度	万博の理念を受け継ぎ、環境にやさしい排ガスを出さない電動オートバイを先導者として導入した。				マラソン大会が多くの市町で開催されるようになり、参加者が大会を選ぶようになった。			競馬場は広く設備が整っているため、市内外から多くの選手及び応援者が気楽に参加して交流を楽しんでいる。		
	平成19年度	市制35周年記念第20回大会を盛り上げるため、松野明美選手を招待した。				馬インフルエンザが原因で場外発売と同時開催により、例年に比べ関係機関との調整を要した。			〃		
	平成20年度										
	平成21年度										
	平成22年度										
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
平成27年度											
2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名					前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明			
	とよあけマラソン参加者数（人）					4,000（人）	4,000（人）	会場・経費などにより、適切な参加者数を目標数値として設定した。			
2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	活動実績 a（人）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b（千円）	3,102	2,868								
	人件費 c（千円）	12,437	13,055								
	合計コスト d（b+c）（千円）	3,803	3,787								
	単位コスト d/a（千円）	16,240	16,842								
		1人当たり	5	1人当たり	6	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 ➡ 直接事業費 参加料 2,654千円 協賛金 3,260千円 委託料 7,000千円 繰越金等 141千円
人件費 当事業は課全員で役割を決めているため、各担当する事業数で按分する。6,673×（1/45+1/13+1/7+1/6+1/10+1/17）

		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
２－４成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績（単位）	3,102（人）	2,868（人）								
	後期目標値に対する達成度（％）	77.6（％）	71.7（％）								

3 ■ 事務事業の自己評価結果

３－１ 評価結果 （アウトカム自己分析）		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	単年度 担当課評価	A	A								

- ４段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
３－２ 評価の内容	平成18年度	近隣市町もマラソンを開催するようになり、参加者を確保するためのPR	より多くの参加者を確保するために、知名度のあるゲストを招待する。	マラソンは500名からなる市民ボランティアスタッフにより毎年運営されており、スタッフと参加者が融合して大会を盛り上げている。
	平成19年度	マラソンが復活できる環境整備をする。	マラソン事業休止に向けての事務処理。	〃
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
４－１ 総合評価の結果	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	C	多くの市民ランナーやボランティア等によって親しまれてきたとよあけマラソンであるが、これまで20回にわたる開催によって事業目的として一定の役割を果たしたことから事業を休止する。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		